

## IPCC・渋谷首席研究員の講演 - 6月度ATIS例会 -

6月度の例会で、(財)工業所有権協力センター(IPCC)の渋谷さんに「特許検索競技大会について」という演題で講演していただきました。場所は品川・高輪の日立金属・和彊館です。

特許庁から工業所有権情報・研修館(INPIT)へ出向されていた時分からATISでは何度も話をいただいておりますが、今回は特許検索競技大会がどう変わりつつあるかを過去の経緯も踏まえながらわかり易く解説していただきました。

講演は「なぜATISで話すのか?」「なぜIPCCが大会を主催するのか」ということを、参加企業、参加者数のデータ等を豊富に使って説明されていきます。この大会を主催する意義はサーチャーとして調査に必要なスキルを大会とフィードバックセミナーで高めつつ、モチベーションアップや活躍の場の拡大など、イノベーションに貢献できる調査人材の育成を狙うものです。「公益」という観点を大変強調されていたのが印象的でした。

講演は「2012何が変わった」へと移り、さらに詳細なデータをもとにサーチャーの成長の各段階で求められるスキル、あるべき姿を提示していきます。2012年の大会では「より実務に近く」、「調査能力を適正に評価する」方向へと舵を切ったそうです。出題分野間の難易度の差を解消することにも心を砕かれたとのこと、関係者の苦勞が忍ばれます。具体的な設問内容、配点、何を見ようとしているかなども明らかにされ、結果(平均点や得点分布等)やアンケートも紹介されていました。

最後に「2013年はどうなるか」ということで、ここだけの話を披露していただきました。詳細は明かせませんが、より多くの参加者を集め、より多くの表彰が出せるような工夫をされるようです。講演の締めは、6/6付の日経新聞・春秋欄を引き合いに、部下の育成に関して山本五十六が残した名言「やってみせ、いって聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」を紹介されました。実はこの後にも言葉は続くのだそうで、そちらも教えてもらうことができました。

部下の育成に悩む経営層のATISの皆様には大変参考になる講演でした。